

5. 実行結果

(これまでの目落し極積との対比)

(1) 安全面

- ア・極上に上がらないで極積作業が可能である。
- イ・フォークローダのオペレーターの視野が広まり、よく目視出来る状況で作業が出来る。
- ウ・極の幅を広げ、高さを低くしたことにより、極がより安定した。
以上の点で安全上のメリットがある。

(2) 能率面

- ア・極が低いことから極くずれ防止「ハナツケ」が容易である。
- イ・極積作業が地上で出来るため「木口揃え」が容易である。
- ウ・作業者が極への、「上り・下り」がないことから作業が容易である。
以上のことから1日当りの極積量が20%強多くなり、生産性がアップした。

(3) 作業に対する評価

- ア・買受者が、背伸びする程度で極上の材面がよく見られる。
- イ・買受者が、より安心して現物の熟覧ができる。
- ウ・極積する径級階と1段目の本数及び段数により数量の概数を把握できる。
<例えば、中目(24m³～28m³)は1段目20本、5段重ねの場合
は、約22m³となる。>
- エ・上記ウによりトラック(10t～11t車)1台の積載量の倍数となる極積が容易であるため運搬経費に無駄がない。
など、業界紙でも紹介ありましたように、この極積方法に対して買受者の評価を得ることができた。

(4) 虫害防除及び乾燥効果

虫害防除及び乾燥効果の面では、特に変りはない。

(5) 貯材面積

極の高さを低くし、幅を広げることにより貯材面積が15%～25%程度多く必要となるが、当天神貯木土場は年間の搬入量から見て十分なスペースがあるため、これを活用し実施したものである。

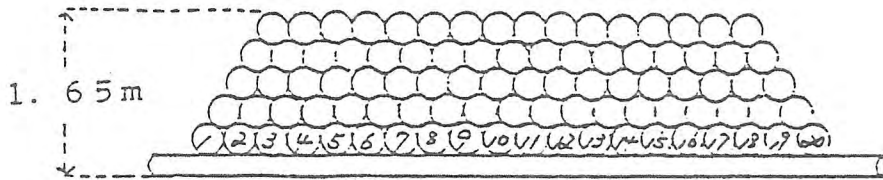
まとめ

梯形椚積は、目落し椚積と対比し、以上述べましたとおり利点が多いということで、すべての素材を梯形椚積するというのではなく、これまで目落し椚積を行ってきたものについて梯形椚積を行うという考えであります。

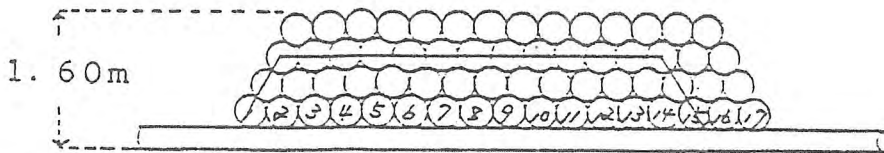
虫害防除及び乾燥効果の面では、梯形椚積より、むしろ椚積が有利であるため、貯材期間・樹材種等を考慮しながら、単木椚・椚積も行うと共に、梯形椚積について更に工夫を重ねながら積極的に取り組んで行く考えであります。

皆さんの今後のご指導をお願いし、発表を終わります。

梯形椚積方式



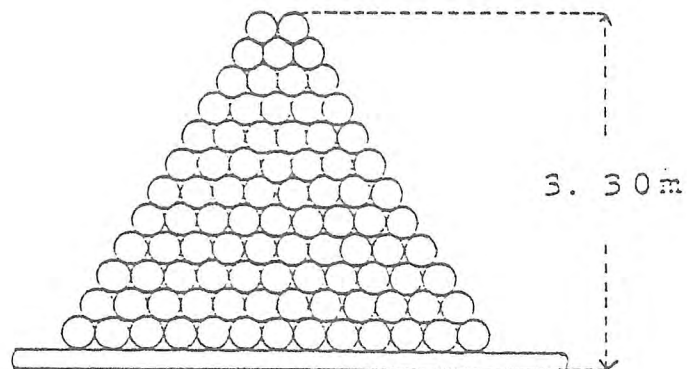
材長 3.65m 24cm~28cm 1段≡ 20本 5段重ね 約22m³



材長 3.65m 30cm~34cm 1段≡ 17本 4段重ね 約22m³

材長 3.65m 36cm上 1段≡ 15本 3段重ね 約22m³

目落し椚積方式



核 棧 積 方 式

